

ことわざアレコレ

愛縁奇縁。確かにそういうことは有りますね。いろいろな友達がいる中で「心を許す」友達がいます。特に考えることもなく自然にそうなっています。気が合い親密になるのは不思議な縁によるらしいです。そういう友達は大切にします。

2025・6・1

努力に勝る天才なし天才と称される「王」「イチロー」「大谷」も人一倍の努力を続けて来た(いる)からこそ天才的な大記録を打ち立てることができたのだと思います。努力がなければ達成できない記録でしょう。凡人であっても努力

を重ねることによって「天才」の領域にたどり着くことが可能です。全てのことに努力こそが人を成功に導くことになると思います。孫にも言っています。

2025・6・2

門前市のごとし家が富み栄えていることをいう。来客でいつもにぎわい、家の前に市場のように大勢の人が集まるさまを指す。政治の世界でも似たようなことが起こりますが、その反動も怖いものがありますね。

2025・6・4

狭き門より入れ安易な道より困難な方法を選んで努力する方が立派な人間に育つことをいう。本来は天国の門は狭く険しいのでそこを通るには努力が必要だということ。(キリストの教え)

2025・6。9 渴し

でも盗泉の水を飲まず困っても不正なことは一切しないとの意。盗泉は中国にある泉の名。孔子が旅の途中この地を通りかかり、喉が渴いていたが泉の名を嫌ってその水を飲まなかったという故事から。誰かさんに聞かせてやりたいですね。

2025・6・13

河海は細流を扱わず度量が大きく人を分け隔てなく受け入れることのたとえ。また他人の意見を受け入れるだけの度量がないと人は大成しないという教え。同義語として「大海は芥をを扱わず」があります。河は黄河、海は普通に「海」を指します・

2025・6・18

株を守りてウサギを待つ古い習慣や方法を頑固に守っていて進歩がない事。中国の古代宋の国で男が切り株にぶつかって死んだウサギを得た。それ以来男は働かずに切り株にぶつかるウサギを待ち続けたという故事から。

2025・6・23

馬鹿ほど怖いものはない愚か者や世間知らずは理性や常識では考えられないことをしでかすので予測もつかず警戒のしようもなく危険だということ。例えばトランプや鳩山由紀夫を指す。

2025・6・28

大恩は報ぜず小さな恩にはすぐ恩返しするものだがあまりに大きい恩にはかえって気づかず報いようとしなないものだという事。提灯を借りた恩は知れど天道の恩は忘れる。

2025・6・29

顧みて他を言う 答えに困り他のことを言ってその場を紛らわすこと。問題をずらしてごまかすこと。中国の齊の宣王が孟子との問答で答えに窮し左右を見回して関係のないことを言った故事から。「痛いところを突かれると顧みて他をいうだけの国会答弁には愛想が尽きた」と言う時に使う。今の政治の世界にはびこっています。

2025・7・3

猿の尻笑い 自分の欠点を棚に上げて、他人の短所や欠点をあざ笑う愚かさという。猿が自分の尻も赤いことに気づかず、ほかの猿の赤い尻を見て笑うという意味から。

2025・7・5

牛の角を蜂が刺す なんとも感じず平気なことまた手ごたえがない事。牛の角を蜂が刺しても痛くも痒くもない事から。政治の世界はどうか。伊東市の彼女が思い浮かびますね。

2025・7・14

曾参人を殺す 嘘や間違っただけを何度も言われると最後には人がそれを信じるようになることをいう。曾参(そうしん)は孝行で有名な孔子の弟子。今の世相を考えると、うなづける部分があります。参院選を見ると SNS 上で嘘の情報が多々あるようですがそれを鵜呑みにする者が多いそうです。そんなことで政治が左右されてはたまりませんね。

2025・7・19

月満つれば則ち欠く 盛んなものも絶頂を過ぎれば衰えゆくものであるとゆうこと。繁栄を誇っておごり高ぶるのを戒めた言葉。自民党と大躍進した二つの政党に伝えたいですね。

2025・7・24

汗馬の労 人のために忙しく走り回って苦勞すること。尽力や功勞をねぎらう際の言葉。馬に汗をかかせるほど戦場を駆け回って立てた軍功の意。「諸君の汗馬の勞に対し会長から金一封を預かっている」と言うように使う。

2025・7・29

一犬影に吠ゆれば百犬声に吠ゆ 誰かが言っ
たいい加減なことでもとにかく世間は事実として
言い広めてしまうものだというたとえ。選挙で
も sns でウソ情報が流れていますが困ったもの
ですね。

2025・8・3、

鰯の頭も信心から つまらないものでもそれを
信仰すれば尊くありがたく思えること。又その
種をつまらぬ迷信をからかうことば。少数政党
が乱立していますが、なかにはオウム真理教や
統一教会まがいの政党もありますので冷静に対
応しましょう。

2025・8・9

皿嘗めた猫が科を負う 主犯や首謀者は捕ま
らず、手下や小物だけが捕まって罰せられるこ
とのたとえ。魚を食べた猫が逃げた後で、空の
皿をなめていた別の猫が捕まって罰を受けるこ
とから。詐欺グループの実態がそのようです
ね。

2025・8・15

三寸の舌に五尺の身を亡ぼす 不用意なおし

ゃべりや失言によって災いを招き身を亡ぼすこともあるのでうかつな発言を慎めと言う戒め。

わずか三寸の舌が原因で大きな体を亡ぼすと言う意から。芸能界によくみられますね。

2025・8・24

土仏の水遊び そうと知らずに危険な行動

をすること。また自分で自分の身を破滅させるようなことをすること。土でできた仏像が水浴びをすれば崩れてなくなってしまうことから。

2025・8・30

魔を追う者は山を見ず 夢中になっている

と周りに気を配る余裕がなくなることのたとえ。目先の利益にとらわれて本来の目的や道理を見失うこと。

2025・9・5

地獄の釜の蓋が開く 正月と盆の16日には誰もが仕事を休むことをいう。この両日は地獄でさえ罪人を煮る窯の蓋を開けて休むと言う意。昔はこの日を藪入りとして使用人にも休暇を与える習慣があった。

2025・9・20

地蔵は言わぬがわれ言うな 人に秘密を話すときには、相手に口止めをして、その相手は誰にも言わないのに、当の本人がうっかり話をしてしまうことが多いので、自分の口に気を付けろと言う戒め。お地蔵様のが前で悪事を働いた者が、地蔵に「どうか黙っていてください」とお願いしたところ、この言葉を返されたと言う昔話から。

2025・9・28

霜を履んで堅氷至る(しもをふんで・・・)

物事には必ず何らかの兆しがあるので、少しでもその前兆が見えたら、大事に至る前に用心せよとの戒め。霜を踏んで歩くようになると、間もなく堅い氷の張る厳しい冬が来ると言う意から。

2025・10・3

糟糠の妻は堂より下さず(そうこう くださず) 貧しいころから長年苦勞を共にし

た妻を、成功した後も大切にすること。糟糠は酒粕と米糠で粗末な食べ物。堂は座敷。

2025・10・11

末大なれば必ず折る(すえだいなれば ----)

組織は下の者の勢いが強くなると、上に立つ者の統率が及ばなくなり、いつかは倒されてしまうということ。枝が伸び葉が茂って重くなると、頑丈な幹も折れてしまうことから。

2025・10・25

虎の威を借る狐

自身は何の力も無い者が、権力者の後ろ盾を得て偉そうに構えること。虎に食われそうになった狐が

「自分は百獣の長に任ぜられている、自分の後ろについてくれば判る」と言った。すると、狐の後ろを歩く虎を恐れて他の動物

は逃げ出したが、それを虎は狐の威厳のせいだと思って狐を食い殺すのをやめたという寓話から。どこかの総理大臣がやっていることとソックリですね。

2025・11・1

針とる者は車をとる 小さな悪事から始まって、やがて大きな犯罪につながる事。針を盗んだ者を、わずかな罪だからととがめないでいると、そのうち車のような大物を盗むようになるとの意。

存立危機事態発言が「はじまり」であって実は戦争という大きな事態を招こうとしている、どこかの総理のようですね。

2025・11・24

日暮れて途遠し(・・みちとおし) 晩年
になっても、生涯の目的の達成まで程遠い
こと。日は落ちたのに目的地までまだかな
りあると、人生を旅程になぞらえた言葉。

2025・11・30

'